修学旅行生 学び支援

元町商店街 SDGsの試み発信

横浜

持続可能な開発目標（SDGs）の実現へ取り組んでいる横浜市中区の元町商店街が、発信力を強めている。先月と今月に県外の修学旅行生を受け入れ、協同組合元町SS会の各店舗がそれぞれの試みを説明、生徒の学習を支援した。関係者は「今後もいろいろな機会を通じ発信に努めたい」とし、商店街の持続性も高めようとしている。

今月2日、元町で衣料品のデザイン、製造、販売などを手がける「フクゾー洋品店」。専務を務める森本靖啓さんは端切れを示しながら「こうしたものをティッシュケースやシュシュ（髪飾り）などに活用し、無駄を出さないよう資源を大切に使っています」と優しく声をかけた。

説明を受けたのは、修学旅行中の三重・四日市市の中学3年生。SDGsの実践例を現場に学ぼうと、約170人がグループで約20店舗に分かれ、同店では「ジェンダー平等を実現しよう」と「住み続けられるまちづくりを」の目標に通じる取り組みを知った。

修学旅行生に取り組みを説明する森本靖啓さん　＝2日、横浜市中区

修学旅行生が元町商店街を訪れるのは、先月の兵庫・相生市の中学校に続いて2回目。横浜中華街などの名所が近くにある好立地も手伝ってか、独自に修学旅行生を受け入れている店舗もあるという。

SS会はほかにも、地元の横浜女学院高校と連携しSDGsに関連したPRイベントを開催。商店街を多くの人にアピールする目的も兼ねて発信に積極的だ。

「これからのお客さまを引き込んでこられるかが元町の課題」と森本さん。「修学旅行生の記憶の片隅に元町という言葉が残っていればうれしいし、これからもSDGsの新しい取り組みを仕掛けていければ」と意気込んでいる。

（下屋鋪　聡）

4年ぶり神

海南神社 夏告げ

三浦

三浦市・三崎下町に夏の訪れを告げる海南神社の「八雲祭」が3日、同地区で開催された。雨の中、神輿（みこし）の渡御が4年ぶりに実施され、威勢のいい木やりとおはやしが町中に響いた。

午前10時から同神社青年会メンバーら約150人が交代で神輿を担ぎ、12時間かけて町内を巡った。店舗や住宅の前では木やりに合わせ、家内安全や商売繁盛を願い神輿を頭上に掲げて揺らした。

青年会の小川圭介会長

生田緑地 春夏秋

昔の家は、ふういう建具で部屋これらを自由自たり、入れ替えができました。に夏仕様の建具で、日光を遮り風通しを良くし

「PR

暦の神秘 観光資源に

「ダイヤモンド富士」など暦上特別な日に現れる光景を観光資源にしようと、寒川町観光協会が、町の特性を「二至二分（夏至、冬至、二分（春分、

二至二分の日の出、日の入りの地点を結んだライン上には多くの神社仏閣、パワースポットが並び、その中心に寒川神社がある」と指摘。「暦上特別な日である」と説明する。

「レイライン」は古代の遺跡が意図的に直線状に並ぶように配置された状態を指し、同協会では同神社を中心にパワースポットが配置された直線を「寒川のレイライン」と呼んでいる。

以前から町の固有の歴史やパワースポットに着目した企画を展開している同協会は特別な体験ができる地域特性を着

特殊詐欺を防ぐ 銀行員ら感謝状

鎌倉

特殊詐欺を未然に防いだとして、大船署は5月31日、鎌倉市内の金融機関職員らに感謝状を贈呈した＝写真。